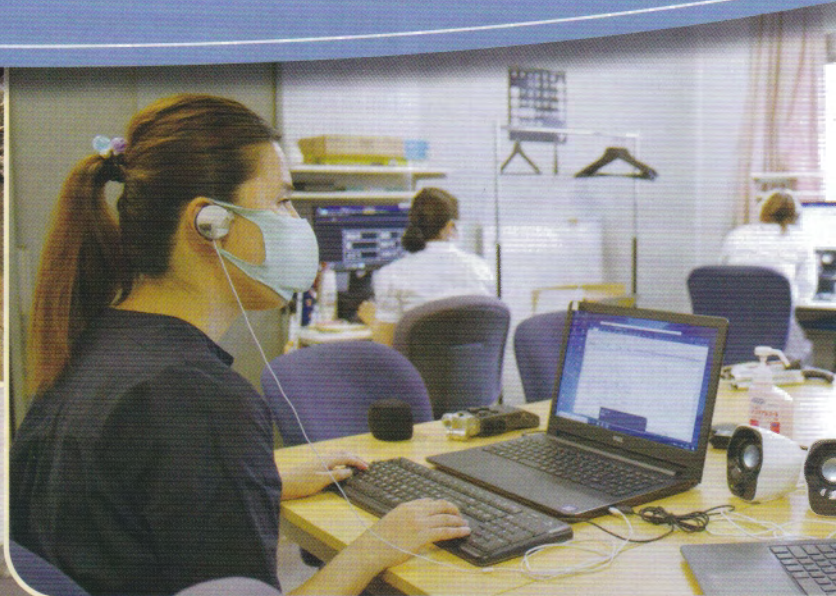




知りたいあなたのこと

視覚障がい者の生活・気持ち



上映時間21分 [C#7499]

DVD 66,000円(税込72,600円)



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<https://www.toei.co.jp/edu/>

多言語
対応版

- 日本語字幕
- 英語字幕/English Subtitles
- 中国語字幕/中文字幕

目が見えないということ、私たちはどこまで想像できているのでしょうか？視覚に障がいを持つ方々は、いろんな場面で危険や不安を感じながら生活を送っています。この作品では、3人の全盲の方と1人の弱視の方に取材しました。一体どんな場面で困っているのか、どんな配慮が求められているのか。今作は、視覚に障がいを持つ方々の話を通じて、私たちができる配慮を共に考えてゆく内容です。

オープニング 点字ブロックの種類と意味、知っていますか？

様々な場所で見かける、線状と点状2種類の点字ブロック。線状のものは進行方向を示し、点状のものは危険箇所や誘導対象施設の位置を示していることを知っていましたか？最近、点字ブロック上に自転車などの障害物が置かれている風景もよく見かけます。

視覚障がい者の方々が安全に生活を送るために、私たちにはどんな配慮が求められているのでしょうか。



CASE1 バス停・駅のホームでの配慮

全盲の西田友和さんは、毎日バスと電車を乗り継いで出勤しています。通いなれた通勤ルートですが、ふとした時に道がわからなくなったり、危ない思いをすることがあります。特に駅のホームは、視覚障がい者にとって最も危険な箇所のひとつ。西田さんも電車の連結部を開閉ドアと間違え、転落して大怪我をしたことも。

CASE2 職場などでの配慮

西田友和さんは、現在点字図書館の館長として、目の見える職員たちと共に働いています。職場では、書籍や書類データを点字に変換する機器などを使用し、内容を確認しながら業務をこなします。視覚障がい者の方と共に働く際、どのような配慮ができるのか。職員の方にお話を伺います。



CASE3 視覚障がい者への理解 ～弱視者の存在～

「弱視」とは、メガネなどを使用しても視覚を用いての日常生活が難しい状態のことで、「ピンボケ状態」「視野狭窄」「中心暗転」など、様々な種類の見え方があります。本章では、障がいがあることが分かりづらいために周囲から見過ごされがち「弱視者」の存在にスポットを当てます。

CASE4 気軽に声掛けのできる社会へ

全盲の西田梓さんは、自ら出演し、視覚障がい者の日常を伝える動画を制作しインターネットで配信しています。

夫の友和さん(CASE1, 2)に出演)と小学生の娘の3人家族。梓さんは、娘が小さい頃「視覚障がい者でも普通に子育てはできる」と周囲に認めてもらおうと必死でした。そんなとき「一人で子育てしなくていい。ほかのママも同じだよ」と知人から言われ、気持ちが楽になったと言います。



エンディング 私たちにできる配慮とは

視覚障がい者の方々に対して、私たちが普段からできること…それは、まず彼らと対話し、気持ちを知ること。その上で、見守り、声をかけ、助けが必要であれば手伝うなどの配慮が自然にできる社会は、誰にとっても、住みやすい社会ではないでしょうか？